

第2学年 社会科 学習指導案

天理市立福住中学校 教諭 宇高 礼弥

1. 単元名 日本🌏の地域🌐的特色 地域🌐の未来🌐のために私🌐たちにできること

2. 単元🌐の目標

○日本🌏の国土🌐における森林🌲の役割🌐や、現状🌐と課題🌐について、本校🌐周辺🌐の具体🌐的な事象🌐と関連🌐付けて理解🌐するとともに、情報🌐を適切🌐に収集🌐・整理🌐し、地域🌐の課題🌐を多角🌐的に把握🌐する技能🌐を身🌐に付けている。

(知識🌐・技能)

○森林🌲が持つ多面🌐的な機能🌐(環境🌐保全、防災🌐、経済🌐活動等)の重要🌐性を、将来🌐の地域🌐社会🌐や地球🌐規模🌐の課題🌐と結び🌐付けて考察🌐し、持続🌐可能な社会🌐の形成🌐という観🌐点から、山間🌐地域🌐における森林🌲資源🌐の活用🌐や保全🌐の在り方🌐について自分🌐の考え🌐を論理🌐的に表現🌐している。

(思考🌐・判断🌐・表現)

○地域🌐の森林🌲・里山🌐が抱える様々🌐な課題🌐を自分🌐事として捉え、地域🌐の担い手🌐や行政🌐の取組🌐みに関心🌐を持つとともに、よりよ🌐い地域🌐社会🌐や持続🌐可能な社会🌐に向けて、学ん🌐だことを生活🌐や社会🌐の在り方🌐に生かそ🌐うとしてい

(主体🌐的に学習🌐に取り組む態度)

3. 単元🌐について

(1) 教材🌐観

本教材🌐は、学習🌐指導要領🌐における地理🌐的分野「日本🌏の様々🌐な地域🌐」の「資源🌐・エネルギー🌐や産業🌐」の学習🌐に位置🌐づけられるものである。日本🌏の国土🌐の約7割🌐を占める森林🌲は、資材🌐の供給🌐源という側面🌐だけでなく、水源🌐、生物多様🌐性の維持🌐など、多面🌐的な機能🌐を有🌐している。本単元🌐では、森林🌲環境🌐と人々🌐の生活🌐との関わり🌐を考察🌐することを通して、持続🌐可能な社会🌐の形成🌐者としての資質🌐を養うこと🌐をねらいとする。

日本🌏の山林🌲が抱える放置🌐林等🌐の課題🌐は、土砂🌐災害🌐のリスク🌐など私🌐たちの安全🌐な生活🌐とも直結🌐している点🌐が挙げ🌐られる。生徒🌐にとって、身近🌐な「木🌲」という素材🌐から、自分🌐たちが住ん🌐でいる、学ん🌐でいる地域🌐の身近🌐な問題🌐から地球🌐規模🌐の環境🌐問題🌐までを論理🌐的につなげ🌐て考えること🌐ができる。

さらに、ESD🌐が目指す「持続🌐可能な社会🌐の担い手🌐」の育成🌐において、森林🌲資源🌐を「使🌐う・育て🌐る・守る」というサイク🌐ルを学ぶこと🌐は、SDGs🌐の目標15「陸🌐の豊か🌐さも守ろう」だけでなく、目標12「つくる責任🌐 つかう責任🌐」な

どとも密接🌐に関わっ

(2) 生徒🌐観

本校🌐の生徒🌐は小中🌐学校🌐が一緒🌐であるという強み🌐を活かして、小🌐学校🌐の学習🌐から地域🌐の自然🌐と触れ合🌐い米づ

くさんあり身近な風景であるが、一方で身近すぎるがゆえにその存在に深く考える機会は多くないように感じる。また、特認校制度で市街地から通っている生徒もクラスには多数在籍しており、山間部に住んでいる生徒との間で森林に対する価値観も異なっていると推測される。そのような状況において、里山保全の重要性や地域との関わりの中で自分たちに何ができるのかということを考え、行動に移していくことに大きな意義がある。

(3) 指導観

地域の現状として、森林の多くが未整備のまま放置されている現状にある。生徒にとって、山は身近にある風景に過ぎず、維持管理の必要性やその困難さについて意識が向きにくい。そこで本単元では、維持管理することが困難になってしまった森林が地域社会にどのようなリスク(土砂災害、獣害の深刻化等)をもたらしているかを考えさせる。その上で、小規模校ならではの地域との近さを活かし、過去の里山の様子や現状を知る地域住民の方々にお話を聞くことなどを通じて、地域における資源としての森林の可能性を模索させたい。

指導にあたっては、タブレット等を活用して地域の空中写真(過去と現在の森林の変化を比較できるものなど)やハザードマップを比較させ、自分たちの居住地や通学路における森林の状況を視覚的に把握させる。その中で、現状どのような課題が見えてくるのか生徒自身で自分事として考えさせるようにする。

これらの活動を通しては、知識の習得だけでなく、地域の持続可能性を支える一員として、自分たちにできる取り組み(情報発信や木材の有効活用策の提案など)を考えていく。これにより、社会的な見方・考え方を働かせながら、ESDの資質である「責任ある行動」や「未来志向」を育みたい。

また、これらの学習は「福住学」でより深い学びを行うことを前提としている。これまでの3年間で「福住学」では、地域で保護活動が行われているヤマトサンショウウオが住みやすい里山を保全することを目標に掲げ活動を行ってきた。しかし、現在の活動を見ていると特に自分自身が担当している炭作り班では、環境の保全や地域に貢献していくという目的ではなく、炭をいかに上手く作るのかということが目的になっているように感じる。そこで、これらの学習を行うことで、本来目を向けるべきである課題について考える機会を設けることで、その後の活動に良い影響を与えることができるようにしていきたい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

相互性: 森林の多面的な機能が、自分たちの生活や地域の環境、地球規模の気候変動と「つながっている」ことを理解させる。

責任性: 地域の山を誰が守るのかという課題に対し、自分たちにも「協力がある、やり遂げている」という当事者意識を持つ。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

コミュニケーションを行う力

地域の現状を知る住民の方への取材を通じ、情報を収集し、自らの考えを適切に伝えられる。

他者と協力する態度

居住地や価値観の異なる生徒同士が、共通の地域課題に対して知恵を出し合い、協働して解決案を構想する。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

将来の自分たちや下の世代が、豊かな資源と安全な生活を続けられるよう、責任をもつ。

自然環境、生態系の保全を重視する

適切な管理を行うことで、豊かな生態系や安全な居住環境が維持されるという認識をもつ。

・達成が期待される SDGs

11 住み続けられるまちづくりを

15 陸の豊かさも守ろう

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 日本の森林の多面的な機能や現状を、地域の具体的事例と関連付けて正しく理解している。</p> <p>② 統計資料や地域地図、インタビュー結果などを適切に活用し、地域の課題を多面的に把握・整理している。</p>	<p>① 森林資源の活用や保全をめぐる諸課題を、持続可能な社会の形成という視点から多角的に考察している。</p> <p>② 地域の将来に向けた森林活用の在り方について、根拠を持って自分の考えをまとめ、適切に表現している。</p>	<p>① 地域の森林が抱える課題を自らの生活に関わる「自分事」として捉え、粘り強く追究しようとしている。</p> <p>② 森林教育での学びを通して、よりよい地域社会の創造や持続可能な未来に向けて、自らの生活を振り返り改善しようとしている。</p>

5 単元の指導計画(全4時間)

	主な学習活動	学習への支援	評価(△) 備考(・)
1	<p>○地域の山林の現状と過去について知り、持続可能な里山を作っていくために、何が求められているのか考える。</p> <p>・空中写真やハザードマップを比較し、身近な山の変遷や災害リスクを確認する。</p> <p>・過去の様子と現状を比較して、どのような課題を持っているのか、その背景について、グループ活動等を通してまとめる。</p>	<p>・ICT 端末を活用し、視覚的に地域の山林が現在どのような様子なのか、過去はどのような様子だったのかを視覚的に理解できるようにする。</p>	△ア①②

2	<p>○森林が地域で果たしている役割を考え、地域の一員として自分たちに何ができるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の多面的な機能と経済の繋がりについて学ぶ。 ・森林を保全していくために、自分たちでできる活動にはどのようなものがあるのか検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にどのような方法があるのか、例示等を行いながら、生徒が想像しやすいようにする。 	<p>△イ① △ウ①</p>
3	<p>○地域の方や、山林についての講師の方から話を聞き、これまでの活動や考えについて振り返り今後どのように活かしていくのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民・山林についての専門家の方から講話を聞く。 ・聞いた話を踏まえて、持続可能な活用や保全をどのように行っていくのかについて考える。 		<p>△ア② △ウ②</p>
4	<p>○これまでの学習を踏まえて、持続可能な地域づくり、持続可能な自然環境を作っていくために、今後どのような活動を行うか考える。(まとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、今後総合の時間等でどのような活動を行い、地域貢献をしていくのか考える。 ・グループごとで発表を行い、議論する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきたことを踏まえた上で考察することができているのか留意する。 	<p>△イ①②</p>